

2017年1月22日

## 福音書からのメッセージ

イエスは、「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」と言われた。

(マタイによる福音書4章19節)

「悔い改めよ、天の国は近づいた」、イエス様はこのような言葉で宣教を開始されました。しかし「悔い改めよ」という言葉を聞いたときに、わたしたちは少し怖い気持ちになることはないでしょうか。

悔い改めとは、自分が今、罪深いものであるということを告白し、神さまに憐れみを求めることです。でも果たして、そのようなことができるのでしょうか。イエス様は、ガリラヤという地に行かれました。そこには神さまに頼らないと生きられない、神さまにすぎるしかない人々がいました。自分の力で悔い改めることができるのなら、苦労はありません。わざわざイエス様のもとに来る必要なんてないのです。

旧約聖書には、たくさんの預言者が出てきました。その預言者たちは、神さまから離れてしまった人々に叫びます。「神の元に立ち返れ」と。その言葉を聞いて、人々は「そうだな」と思ったことでしょう。でも神さまのみ心に従って、生きていくことはできませんでした。それが人類の歴史です。しかし神さまはその状況を良しと思わずに、イエス様を与えられたのです。

イエス様は伝道を開始されたとき、真っ先にガリラヤ湖の漁師の元に向かいます。そして四人の人たちに声を掛けます。イエス様の方から見つけてくれるのです。彼らの日常のただ中にイエス様はやってきて、じっと見つめられます。ペトロやアンデレがイエス様を探し求めたわけではありません。イエス様が自ら来られたのです。

わたしたちは神さまがどこにいるのか、見失ってしまっています。それがわたしたちの罪です。自分で神さまを見つけ、その



方向に向かって歩くことができるなら、どんなによいことでしょうか。でも、神さまをいくら探しても見つからない。それがわたしたちの姿なのです。

そのわたしたちのところにも、イエス様は来てくださいました。わたしたちが探したのではありません。イエス様が来られたのです。イエス様はずっと、わたしたちの心をノックし続け、わたしたちの名前を呼び続けられています。わたしたち一人ひとりのところにやってきて、その姿をご覧になっているのです。

ペトロとアンデレはイエス様の言葉を聞いて、すぐに網を捨てて、従いました。網は漁師にとって、自分の生活の糧であり、命をつなぎとめるものでした。大きな拠り所でした。しかし彼らは、網から手を離しました。彼らには、新しい拠り所ができたのです。そしてイエス様に従うときに、彼らは神さまに向き直ったのです。

わたしたちも、そばに来て、わたしたちの姿に目を留め、呼びかけてくださるイエス様を感じましょう。そしてイエス様の声に聞き、拠り所にして歩むのです。イエス様は共にいてくださいます。

### 桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>